



2009年8月26日
日本板硝子株式会社

NSGグループ 代表執行役異動について キーポイント

当社は8月26日以下の発表をした。

1. 代表執行役社長兼CEOのシュアート・チェンバースが本年9月30日をもって辞任する。
2. 後任には取締役会長の藤本勝司が就任する。就任日は本年10月1日。
3. 取締役会議長の出原洋三は取締役会議長兼会長に就任する。就任日は本年10月1日。
4. これらの就任は長期的な後継候補が準備できるまで継続する。
5. ピルキントン社買収後、当社は現在の世界的な景気後退のなかでも、当社の戦略目標に対して相当な進展を図ることができた。チェンバース氏の貢献についてはリリース文のコメントに記載の通り。
6. トップの変更はあるが、当社の戦略目標等はこれまでどおり。

(以下、上記各事項の補足)

1. スチュアート・チェンバースは本年9月30日に代表執行役社長兼CEOを辞任する。

- ・同氏はピルキントン社買収時には同社のCEOであり、また同社買収後は当社のCOOに、そしてその後CEOに就任。
- ・ピルキントン社時代から数え、この7年間、同氏は経営トップであり続け、そして買収後両社の統合を成功に導いたが、このたび家庭の事情で退任することに。
- ・9月30日をもって現在の職を辞任し取締役も辞任。辞任後はシニアアドバイザーに就任予定。

2. 後任には取締役会長の藤本勝司が就任する。就任日は本年10月1日。

- ・後任社長の藤本勝司は現会長であるが、チェンバースの前の社長であり、グループ内全事業に精通。
- ・株主総会の議長を務める。

3. 上記の異動に伴い、取締役会議長出原洋三は、取締役会議長兼会長に就任する。

- ・取締役会議長出原洋三は藤本勝司の取締役会長職を引き継ぐ。

4. 上記体制は今後長期的な後継体制を確立するまで継続する。

- ・国際企業において、予定外のことが起きた場合、会長がCEOの役割を一定期間(必要期間)引き受けるということは一般的。それによって取締役会はその間、より長期的な後継選択が実施可能となる。

日本板硝子株式会社 広報・IR部

〒108-6321 東京都港区三田 3-5-27

電話：03-5443-9477 FAX：03-5443-9543



5. ピルキントン社買収後、当社は現在の世界的な景気後退のなかでも、当社の戦略目標に対して相当な進展を図ることができた。チェンバース氏の貢献についてはリリース文のコメントに記載の通り。

- ・両社の統合及び国際的な新NSGグループをつくりあげることに果した同氏のこの3年間に渡るコミットメントと情熱に感謝したい。
- ・同氏はこれまで会社に対しビジネス運営と財務面の両方において大きな貢献。
- ・当社は現在の世界的な景気後退のなかでも、当社の戦略目標に対して相当な進展達成。統合は完了し、借入金削減は予定より1年早く当初目標を達成。現在の市場環境に見合う思い切った構造改革を実行。

6. トップの変更はあるが、当社の戦略目標等はこれまでどおり。

- ・当社の10年間戦略(2006年7月公表)は当社の長期ビジョンとしてこれまでどおり継続し、またその基礎となる目標に変更はない。ピルキントン買収後、両社の強みを活かしそして国際的企業を確立することを目標としたがその方針に変更はない。
- ・2011/3を数値目標達成時期にしていた現在の中期経営計画は、世界的景気後退のため時間軸の変更を余儀なくされた。一方10年間戦略のフェーズ1で掲げた目標はもともと4年間かかると見込んでいたが、現時点で相当な進展を図っている。
- ・既報のとおり本年度(2010/3期)は大幅な市場の回復は期待できない。売上高全体は市場の落ち込みに大きく影響を受けるだろうが、一方いくつかの市場では回復の兆しはある。
- ・現在注力すべきは構造改革の実施。本年度後半からそのメリットが顕在する予定だが、メリット額は年間換算で160億円を見込む(来年度にはフルで寄与)。
- ・2012/3期までに、営業利益率は2008/3期並みに戻っていると見込む(但し売上高レベルは完全には戻っていないかもしれない)。また世界不況の中にも関わらず、当社の最も重要な目標である統合と借入金返済に関しては過去3年間に大きく進展した。

【お問い合わせ先】 日本板硝子株式会社 広報・IR部 電話 03-5443-9477

以 上

日本板硝子株式会社 広報・IR部

〒108-6321 東京都港区三田 3-5-27

電話：03-5443-9477 FAX：03-5443-9543